

第八十六回フオト句優秀作品（30年7月16日）



梅雨晴れや
積もる遊びに時忘れ

（長尾進一郎）



ビルの灯が
足元護る帰り道

（長尾進一郎）



札びらを切って咲かせる夜の花 三春



待ちぼうけ
恋猫来る気配なし (昌康)

寸評：今月は素晴らしい作品が並んだ。

1) 梅雨晴れや積る遊びに時忘れ 長尾 進一郎

逆光の木立のトンネルの中を子供用自転車に乗った男の子と捕虫網を持ったお姉さんらしい二人のシルエット。葉の隙間から太陽が覗いているが、そろそろ家に帰る時間を感じさせる巧みな撮影技術だ。句も適切で申し分ない作品である。

2) ビルの灯が足元護る帰り道 長尾 進一郎

これも長尾さんの作品。雨の夜の東京駅前のきれいな写真だ。句は無難だが、強いてあげれば「足元護る」と「帰り道」が不要。「足元にビルの灯滲む雨の夜」とでもしては。

3) 札幌らを切って咲かせる夜の花 三 春

豪華な花火の写真。難しい花火をこんなにきれいに写せる腕前に脱帽だ。句はいつもの川柳調で、句の対象は花火ではなく芸妓さんのほうが似合っているのでは？

4) 待ちぼうけ恋猫来る気配なし 松田 昌康

猫が退屈しきって大欠伸をしている瞬間を上手くとらえた。句も軽妙で画面によくマッチしている。

句付



今月のお題写真は安藤さんの提供。新宿御苑の大温室で撮ったキンシャチという名のサボテンの写真です。

寸評：

1) 嫁姑カドはとれてもトゲ残る 三 春

嫁と姑の関係はいつになっても変わらない。小さなトゲでも残れば一生話題にされるのは必定。

2) 花と棘使い分ければ敵おらず 長尾 進一郎

世の中すべて円満にと願いたいものです。

3) 野暮天がサボテンに凝りスツテンテン 中村 晃也

サボテンも希少種には大金を投じてでも。単なるごろ合わせ。

4) 見た目には棘々しいが瑞々し 平尾 富男

なんとも素直な句でコメントしようがない。

5) サボテンを縫って疾走アパッチ族 松田 昌康

サボテンを見て昔見た西部劇を思い出したのだろう。

6) 玉の輿針の蓆もなんのその 三 春

金持ちに嫁げればどんなに辛い思いも我慢する。1) の作者が本音を漏らしたとしか考えられないが。